

連載

母が、脳梗塞になりました。

③



しげ まる子

さいたま市在住
主婦 62歳、パート勤務
子育ても終わり夫と2人暮らし
孫4人

小さな命に励まされながらの施設探し

20日目の面会も、1時間経っても病院からはおとがめなしでしたが、母から「そろそろ帰りなさい」とうながされました。そうだよ。飛行機の間もあるし、そろそろ行かなきゃ。

わたしは、母の肩を両手でがっちり掴んで、「絶対迎えに来るからね! 待っててね!」としつかり目を見つめました。そして大粒の涙がぼろり。母は「泣いたらいかん。もう行きんしゃい!」。脳梗塞になってもやっぱり母は強しだな。

泣いたらダメ! 前だけを見よう! 振り返らずに病室を出ました。埼玉の家に着いたのは夜の10時過ぎ、明日は仕事、頑張ろう。

翌日、仕事から帰って、夫はお風呂。わたしは食事の支度。いつも通りの流れです。そこに娘からのライ

ンがピ」つと。

「子宮口9センチ。これから分娩室に入ります」

え? 確か予定日は2週間後!?

「お父さん!」お風呂のドアをドンドンドン!「どした?」「あつやっぱり大丈夫」お風呂入って慌ててもしかたありません。一旦、落ち着きましょう。

それから病院へ行った。帰されたりはありましたが、無事に元気な女の子が生まれました。

福岡に行く時に、娘の出産のことは気がかりでしたが、娘が「わたしは大丈夫だから、おばあち



やんのところに行ってあげて！」と背中を押してくれました。後で、聞いた話だと、前日から予兆はあったらしいのですが、わたしが心配するから言わないでくれていたみたいです。ありがとっ…。

目の前にいる小さな小さな命が、母の施設探しに呆然としていたわたしにエネルギーをくれました。

そんな中、母は脳神経外科病院からリハビリテーション病院に転院することになりました。病院での治療は終わり、リハビリテーション病院でリハビリをします。脳梗塞は最長5カ月の入院が可能です。つまり、この5カ月の間に埼玉の施設を探さなければなりません。

まずは、福岡でお世話になっていたケアマネジャーさんに連絡。

「心配してました。お母さん『動けんくなったら、埼玉の次女さんところに行きたい』って言うておられましたもんね」。ケアマネジャーさんにもそんなこと言うてくれてたんだ。嬉しいな。

ケアマネジャーさんが教えてくれたのは、まずは介護認定を取ること。介護認定の度合によって施設も変わってくるそう。有料老人ホームはお値段も良さそう。それが無理なら特別養護老人ホーム。リハビリをしてくれる老人健康組合の施設もあります。

費用から考えると母は特別養護老人ホームですね。この施設に入るには。要介護3以上じゃないと入れません。要介護3は簡単に言ったら一人歩行が困難な人の

ようです。詳しくはいろいろな区分があるみたいです。現在の母の状況は要介護3。でも、リハビリで歩けるようになるかもしれない…。そしたらうちで一緒に暮らそう。

でもリフォームが必要になってくるかな。お金どうしようかな。パート増やすかな。体力持つかかな。あっいかんかん。マイナス方向に気持ちが行ってしまった。仕切り直し。どうなるうともわたしは母を守る！これだけは変わらない。

まず、ケアマネジャーさんが教えてくれた地区の包括センターとやらに連絡をしました。テキパキとした男性が手際良くなんでも答えてくれましたが、最終的には間に入ってくれる業者さんのパンフレットを送りますので、その業者さんをお願いするか、区役所に「ハートページ」というさいたま市の介護施設が掲載されている無料の冊子があるので、それで探してくださいと言われました。

あれ？意外と自力…。包括センターからいただいたA4を三つ折りにされた業者さんのパンフレットが、なんとなくわたしの性に合わない気がしたので、とりあえずは区役所で「ハートページ」をもらいに行きました。「ハートページ」には諸々に区分された老人施設が載っていました。希望は特別養護老人ホームです。わたしが車で行ける範囲だと20件くらいありますね。とりあえず近場から電話してみよう！ちょっと緊張します。